



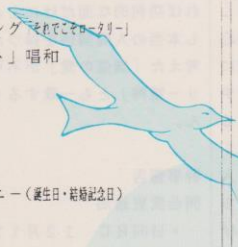
自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raga

ラジエンドラ・K. サブー
1991~1992年度R1会長

1991.12.13(金)第202回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング [わがロータリー]
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 12月セレモニー(誕生日・結婚記念日)
9. 年次総会
10. 点 鐘



第201回例会記録 (1991.12.5)

会長の時間 濱田 松太郎
皆さん今日は、本日は第201回例会です。
実は、ホテル神宮寺さんのご都合によりまして、予定を1日繰上げ、場所を佐土原町社会福祉センター講堂に移し、例会終了後「佐土原通所福祉作業所」を職場訪問することにしましたので、なにとぞよろしくお願ひします。なお、本日実施が予定されていましたが「第2回親善ゴルフ大会」は、12月19日に延期していただきました。この催しに対して初めからご尽力いただきました親善委員長齊藤数馬君・SAAの田村勝二君・幹事鈴木正敏君に、心から感謝申し上げます。厚くお礼申し上げます。

ご存知とは思いますが、この通所福祉作業所は、文学雑誌で有名な龍舌蘭の同人でもあられます詩人「金丸樹一先生」のご熱意によりまし

て、昭和62年4月26日に、心身障害児を対象に開設されました。その内容につきましては後述の通りであります。予定といたしましては、本例会を少し早めに終了させていただき、子ども達の昼休みのボール遊びなどを見学しながら、終って作業に就くところで職場訪問したいと思ひます。

ところで皆さん、本日は次の詩について話します。

雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏ノアツサニモマケズ丈夫ナカラダヲモチ、ヨクハナク、ケツシテイカラズ、イツモシズカニ笑ッテイル、一日ニ玄米四合ト、ミソト、スコシノヤサイヲタベ、アラユルコトヲ、ジブンヲカンジョウニイレズ、ヨクミ、キキ、ワカリ、ソレデワスレズ、ノハラノマツノ林ノカゲノ、小サナカヤブキノ小屋ニイテ、東ニ病氣ノ子供ガアレバ、イッテカン病ヲシテヤリ、西ニツカレタ母ガアレバ、イッテソノイネノタバラナイ、南ニ死ニサウナ人ガアレバ、イッテコハガラナクテイイト言イ、北ニケンカヤソショウガアレバ、ツマラナイカラヤメロト言イ、日デリノキハ涙ヲ流シ、サムサノナツハオロオロアルキ、ミンナニデクノボウトヨバレ、ホメラレモセス、クニモサレズ、サウイフモノニワタシハナリタイ

この作者は言うまでもなく宮沢賢治です。この詩の前半では、個人としての理想の姿が歌われ、後半では、隣人との関係において「かくありたい」と願う気持ちが表現されています。

彼が理想としたのは、仏教思想から来た無償の愛であり、これこそが農林的な共同生活を維持させ、お互いに高め合う原動力であると信じていたのでしょう。宮沢賢治は1896年に岩手県花巻町の資産家の長男として生れ、大正3年岩手県立盛岡中学校卒業、次いで盛岡高等農林学校を首席で卒業しました。地質、土壌、肥科学を専攻し、在学中から詩や童話等、たとえば「春と修羅」、「風の又三郎」、「ゼロ弾きのゴージュ」を発表し、37歳（1988年、昭和8年）で死んでおりますが、そのすばらしい内容は、彼の死去後いついまでも人々の心に感動を与えています。人柄といい、人間愛に満ちあふれた、他人の身になって考える思いやりの精神は、ロータリーの本年度テーマであるR1サバー会長の「自分を越えた眼を」と全く一致するところでありまして、苦しんでいる人を救うため、「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」、自分の命を捧げるという菩薩の教えをそのまま一生忠実に歩み続けたのでした。他人のために自分の一生を捧げられる人は、1万人に1人もいないでしょう。他人の幸せを犠牲にしても、自分だけ幸せになりたいという立身出世主義者は、賢治のもっとも嫌うところでした。また、子供の頃父から、「大きくなったら何になりたいか」と問われたのに対して、彼は「むやみにえらくならなくともよい」と答えたということです。とにかく、小学校時代から友情にあふれ、友だち思いで、いろいろなエピソードが残っております。

彼が過ごした東北地方は、今では考えられないほどの貧乏な暮しで、不作が相次ぎ、農民は生きるか死ぬかの苦しみにあえいでいました。

賢治は、この農民の苦しみを救いたい一心であるいは農学校の先生をしたり、あるいは労働者として、農民と一緒に土地を耕したり、夜遅くまで農民を集めては、作物の作り方、土質・土壌の改良、肥料のやり方等を身をもって指導しました。その働きは、まさに東奔西走の如し、といわれております。そのためであった

のでしょうか、エネルギーを使い果たし、若い一生で終るわけでございます。賢治は、このようにあらゆる分野において天才的才能を現わし、農民と共に社会の底辺にあって働いていたわけで、その間にも、どこをたたくば出てくるのかと思うような、あの美しい、そしてみずみずしい童話や詩が飛び出してくるのでした。そしてこのすばらしい生き方は、ひとしく万人の胸を打つものがあります。

今日の社会では、人と人との繋りは、ともすれば功利的な面だけにとどまりがちです。しかし本当の人間関係を保つためには、この賢治が考えた「無償の愛」が不可欠であり、「ロータリー精神」とも一致するものと信じて疑いません。

幹事報告

鈴木正敏

例会変更通知

- ・日向RC 12月12日・日向中央RC
- 12月11日・日向東RC 12月10日
- の例会は、日向岬健康マラソン大会のため
- 12月8日 8:00日向岬グリーンパークに変更

出席報告

委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	19名
欠 席 者 数	1名
H C 出席者数	18名
出 席 率	94.74%
欠 席 者 名	井下

職場訪問記

佐土原通所福祉作業所では、ちえ遅れの青少年が、一所懸命に、喜々として仕事に取り組んでいる姿が印象的でした。頑張って、頑張れ、と声援を送るのみですが、基本的な職業をマスターされ、一日も早く立派な社会人として一人立ちできる日が来ますよう、心から祈ってやみません。佐土原RCはいつまでも皆さんを応援します。（作業所運営概要は次回に掲載します。）